

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目： 基盤研究（B）  
 研究期間： 2006～2009  
 課題番号： 18360295  
 研究課題名（和文） アジア諸都市の都市組織と都市住宅のあり方に関する比較研究  
 研究課題名（英文） Comparative Study on Urban Tissues and Town House in Asian Cities  
 研究代表者  
 布野 修司（FUNO SHUJI）  
 滋賀県立大学・環境科学部・教授  
 研究者番号：50107538

## 研究成果の概要（和文）：

第一に、アジアの都城の系譜について、『曼荼羅都市—ヒンドゥー都市の空間理念とその変容—』（2006年）、「Stupa & Swastika」（2007）、そして『ムガル都市—イスラーム都市の空間変容』（2008）をまとめることによって、大きな見取り図を描くことができた。また、第二に、アジアの都市組織研究の原点としてきたスラバヤのカンポンについて、四半世紀後に全く同じフォーマットで臨地調査を行い、都市組織の持続力と変容について貴重な知見を得ることが出来た。第三に、特に店屋（ショップハウス）の起源と広がりについて、中国南部、台湾、東南アジアの調査によって、これまでの仮説を確認できた。第四に、西安の回民居住地区の調査によって、中国都城とイスラーム都市の重層関係について明らかにすることができた。以上は、アジア都史研究の大きな基礎を築くことになったと考える。

## 研究成果の概要（英文）：

The study firstly discussed the urban traditions in Asia based on the previous study and showed the scope of the research strategy by publishing “The City as Mandala”, “Stupa & Swastika” and “Mughal Cities”. The field study of kampungs in Surabaya carried out by the same format of a quarter century ago was valuable to clarify the sustainability of urbantissues. The confirmation of the origin and the distribution of shophouse is also the important outcome of the study. The survey of Muslim quarter in Xian gave us the clue to consider the differences between Islam city and Chinese gridiron city. The results of the study is sure to strengthen the base of urban studies of Asian cities.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
18年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
19年度	3,200,000	960,000	4,160,000
20年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
21年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
年度			
総計	14,500,000	4,350,000	18,850,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築計画・都市計画

キーワード：アジア、都市組織、都市住宅、街区、ショップハウス、植民都市、都城、グリッド

## 科学研究費補助金研究成果報告書

### 1. 研究開始当初の背景

本研究計画は、研究者の四半世紀に及ぶアジア都市研究の具体的実践をもとにしており、これまで展開してきた多くの研究テーマが関わっている。インドネシア（スラバヤ）のカンボン **kampung**（都市内集落）についての臨地調査をもとにハウジング計画論を展開した『インドネシアにおける居住環境の変容とその整備手法に関する研究』（学位請求論文、1987年）以降、大きくは都市形成史に関する研究とエコハウスのモデル開発に関する研究に分かれる。都市形成史研究としては、まず、格子状（グリッド）パターンの都市に焦点を当て（チャクラヌガラ（インドネシア）、続いてヒンドゥー都市（ジャイプル、マドゥライ、ヴァーラーナシー（インド）、バクタブル、パタン（ネパール）など）について臨地調査を展開してきた。さらに、インド・イスラーム都市（ラホール、アーメダバード、デリーなど）を対象とし、両者の差異をテーマとしてきた。また、東アジアの都市（北京、台北）について、都市住居と街区組織を問題にしてきた。それぞれの地域に、それぞれの都市型住宅が成立していることを明らかにしたことは、本研究の大きなベースになっている。また、近年展開した植民都市に関する研究（布野修司編著：『近代世界システムと植民都市』、京都大学学術出版会、2005年）は、ますます、アジアの諸都市のそれぞれに応じた独自の都市型住宅モデル、居住地モデルの必要性を痛感させることになった。都市組織と都市住居のあり方に焦点を当てた本研究によってこれまでのアジア都市研究の集大成を試みたいと考えた。

すなわち、アジアの都市についての建築学、都市計画学における研究はこれまで拡散的に行われてきており、体系化することで今後の研究展望を示す段階にある、というのが背景にあった。

現在も変わらないが、アジアの諸都市についての欧米における研究は極めて薄い。アジアの数多くのユニークな都市の空間構成を明らかにすること自体に大きな意義があり、さらにアジア都市研究の体系化への道筋を示すことが本研究の大きな役割であると考えた。我が国におけるアジア都市研究の基礎を固めるとともに、その水準を世界に示すことが大きなねらいとして意識されていた。

### 2. 研究の目的

本研究は、アジア諸都市における都市組織と都市住宅のあり方を、臨地調査によって明らかにし、一定の型の形成とその変容について体系的に明らかにすることを大きな目的にしている。

アジアの大都市、とりわけ発展途上地域の大都市では、深刻な都市問題、居住問題を抱えており、その克服のためのひとつの対応策として、それぞれの都市において新たな都市

型住宅、都市居住地モデルが求められている。本研究を支える問題意識は、大袈裟に言えば、21世紀半ばには深刻な事態を迎えると予想されるグローバルな居住問題である。

本研究は、もとより歴史研究にとどまるものではなく、植民地化のインパクトとその後の変化がより大きなテーマである。都市の形成、変容、転成の過程を、都市組織、都市住宅のあり方に即して明らかにすることは、個々の都市におけるこれからの都市住居あるいは街区のあり方を考えるための大きな手掛かりである。都市組織と都市住宅の関係を明らかにすることによって、スラバヤ・エコハウス以来追求してきたエコハウス、エコ街区モデルへの展開を考えるのが本研究のユニークな点と考える。

### 3. 研究の方法

本研究を、一貫（一環）するものとしてまとめあげるために、まず、以下のA～Cを基礎作業とした。

**A** アジアの都市組織および都市住居に関する文献・資料の収集とリストの作成

文献収集は、各年度継続して行うが、現地での収集とともに、かつての宗主国における収集が中心となる。具体的には、大英図書館、ハーグの国立公文書館（ARA）、王立図書館（KB）、ライデン大学王立民族文化研究所（KITLV）等、セヴィージャのインドイアス公文書館などを集中的に収集したい。これまでフランス、ポルトガルについての情報が薄いので重視する。アウトプットとして、「アジア都市組織研究文献リスト・解題」をまとめ、今後の研究展開のために供する。

**B** 地図資料のインヴェントリーの作成

文献資料の収集と平行して、地図資料も引き続いて収集する。これまで、植民都市研究に関連して、オランダ、イギリスにおいてかなりの地図を収集してきたが、さらに収集対象を拡大し、一般に利用可能な形（CD-Rom等）にまとめる。

**C** 都市組織図の作成

これまで調査してきた都市、また本研究計画で臨地調査を行う都市を中心として、各都市について共通のフォーマット（GIS）で比較可能なかたちにまとめたい。建物の用途、階数、構造、・・・など調査項目に基づく施設分布図、住居類型分布図などが基本となる。A, Bによって得られる資料から作製可能な都市も可能な限り含める。

また、最終的なまとめのために、また、重点調査都市の位置づけを明確にするために、以下のD～Eの作業を平行して行う。

**D** アジア各都市の都市組織と都市住宅の類型化

アジア全体を広く見渡すと、前近代については、大きくイスラーム都市の系譜と中国・インド都城の系譜に分けることができる。あるいは、グリッド系と非グリッド系と

もいい。この類型はあまりにも大雑把であるが、少なくとも街区組織の名称に関わる語彙の分布を明らかにすることにおいて、ある程度のフレームを得ることができるという見通しがある。最終的に、アジア全体について類型と分布図を作成する。

**E** ショップハウスの類型とその分布図の作製

Dのうち、ショップハウスについては東南アジアについてはかなりのデータの蓄積がある。文献による補足も合わせて、最終的に、今後の研究を加速するような分布図が作成可能である。

臨地調査の対象都市は、A～Eの作業から、典型的な都市を選ぶことになるが、研究計画としては、各研究年度、重点調査と広域調査（文献調査を含む）を組み合わせで行う。臨地調査における調査内容は、各都市共通である。これまで積み重ねてきた調査手法を共通としたい。都市全体についての基礎的情報を整理した上で、典型的な街区を選定、詳細なベースマップを作製した上で、各種分布図を作製するとともに、住居の実測、ヒヤリングを行う。

臨地調査は、毎年一都市を重点的に行う。ヒンドゥー都市の系譜／イスラーム都市の系譜／中国都市の系譜／ショップハウス都市の系譜から、各年一都市を選定することとし、予備的広域調査を次年度のために行う。研究計画段階において、重点調査都市（地域）と考えているのは、カトマンズ盆地都市、ミャンマー諸都市（古都）、タイ・コーラート高原クメール都市、ラージャスタン諸都市、グジャラート諸都市、福建・広州諸都市、台湾諸都市、ジャワ諸都市である。初年度：ヒンドゥー都市重点調査＋中国系都市予備調査、第2年度：中国系都市重点調査＋インド・イスラーム都市予備調査、第3年度：インド・イスラーム都市重点調査＋ジャワ都市予備調査、最終年度：ジャワ都市（スラバヤ）重点調査＋補足調査というのが研究プログラムであった。

#### 4. 研究成果

以下、年度別に記したい。

平成 18 年度

第一年度として、まず、当初の計画通り、『曼荼羅都市』（2006年2月）を取りまとめた上での、ヒンドゥー都市の系譜についての補足作業として、“Stupa & Swastika”の刊行（2007年2月）にかなりの時間を割いた。カトマンズ盆地を含めることによって、南アジアについて大きな見通しを得ることができた。一方、全体を見通すべく、基本文献の収集については、中国を中心として行った。

臨地調査は、イスラーム圏についての見通しを得るために、計画より先行する形で、デリー、ラホールをターゲットとした。当初計画では、中国の「店屋」の系譜について予備調査を行う予定であったが、第二年度に向けて、研究者も参加を求められた、国立歴史民

俗博物館の共同研究「東アジア比較建築文化史」が中国を対象として展開されることから、イスラーム圏を先行させることとした。また、タイのホンナンを臨地調査の対象と考えていたが、タイ人留学生を博士後期課程の学生として受け入れることとなったため、この次年度以降に先送りすることとした。

以上のような経緯から、第一年度の主調査対象として、最終年度に予定していたスラバヤを選定し、研究の大きなまとめを展望することを優先することになった。スラバヤについては、4つのカンボンについて、1982年に詳細調査を行っているが、本年度は、そのうち、カンボン・サワプロとカンボン・サワハンの二つについて、同じ方法で調査を行った。四半世紀を経た同じ年の居住地を調査することによって極めてユニークなデータを得ることができた。初年度の大きな成果である。また、最終的なとりまとめを得ることができたことも大きい。

平成 19 年度

臨地調査については、まず、滋賀県立大学の特別研究プロジェクト（「東アジアの城郭都市の比較研究」）に参加することを求められた関連で、予定外であったが、中国都城の系譜に関して、西安－洛陽－開封について、回民地区を中心とした調査を行うことが出来た。また、倭城の調査に関連して研究室で続けている韓国都市の都市型住宅についても短期間の調査を行った。インド・イスラーム都市の系譜として、サマルカンド、ブハラなど中央アジアについて、短期間の調査を行うことが出来た。また、研究室ではヴァーラーナシー調査を行った。さらに、都市型住宅の典型としてショップハウス（店屋）をめぐって、当初は、福建、広州をターゲットとする予定であったが、台湾の蓄積があることから、台湾と福建の間を探るべく澎湖島に焦点が当てた。ショップハウスという意味では馬公が中心であったが望安島の集落調査も比較のために行うことができた。

インド・イスラーム都市をめぐって、調査と併行して、『ムガル都市－イスラーム都市の空間変容－』（京都大学学術出版会）のまとめに多くの時間を割いた。イスラーム都市の原型として、オアシス都市の系譜を明らかにし、西アジアについてもある程度見通しをもつことができた。昨年行った、最終年度に想定していたスラバヤのカンボン（都市村落）調査については、研究室の学生の修士論文としてほぼまとめることができた。来年度には論文として公表を考えたい。四半世紀を経た同じ都市の居住地を調査することによって極めてユニークな論文となる

平成 20 年度

臨地調査については、重点調査として、中国・福建をターゲットとし、泉州について予定通り行った（2008年8月下旬）。また、福州、アモイについても資料収集を行った。昨年度の澎湖島調査と合わせて、中国福建と台湾と

の都市組織に関する関係についてある程度の見通しを得ることが出来た。イスラーム都市の系譜として、マグリブの諸都市について、臨地調査を行う計画であったが、イエメンの高層住宅の系譜を優先し、マグリブについては断念した。イエメンでは、サナア、シバームの他、ムカッラにおいても調査をおこなった。さらに、東南アジア大陸部について見通しをつけたいとしていたが、ラオスのヴィエンチャン、ルアンパバンについて調査を行った。ベトナムからチャイニーズによってショップハウスが持ち込まれていることがはっきりし、ひとつの系譜を明らかにすることが出来た。

前年度の研究成果は、6編の審査論文(ヴァーラーナシー、西安、タイ、インドネシアのカンボン)他、学会発表論文として速やかにまとめた。また、布野修司・山根周、『ムガル都市ーイスラーム都市の空間変容』(京都大学学術出版会、2008年5月)を上梓することができた。

平成21年度

最終年度として、まとめの作業を集中的に行った。

当初研究計画において、重点調査都市(地域)と考えていたのは、カトマンズ盆地都市、ミャンマー諸都市(古都)、タイ・コーラート高原クメール都市、ラージャスタン諸都市、グジャラート諸都市、福建・広州諸都市、台湾諸都市、ジャワ諸都市であった。そして、初年度：ヒンドゥー都市重点調査+中国系都市予備調査、第2年度：中国系都市重点調査+インド・イスラーム都市予備調査、第3年度：インド・イスラーム都市重点調査+ジャワ都市予備調査、最終年度：ジャワ都市(スラバヤ)重点調査+補足調査というのが研究プログラムであったが、上述のように、調査都市の順序は、状況に応じて変更してきた。最終年度に予定していた、ジャワ都市、スラバヤにおけるカンボン調査をいち早く行ったことによって、全体の見通しを得ることが出来たことが大きい。ミャンマーについては調査環境が整わず断念せざるを得なかったのであるが、それに変わって予定外ではあったが、中国・中原および朝鮮半島について調査することが出来た。最終年度の臨地調査は、まず、昨年度の補足として、ラオス南部の集落調査を行い、メコン中流域について、ほぼ把握することが出来た。また、カトマンズ盆地について当初の予定を果たすことが出来た。また、必ずしも当初の予定にはなかったが、福建・広州諸都市、台湾諸都市についてのショップハウス研究が進展したことから、フィリピンの諸都市の中国人街について調査を行った。

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 22 件)

- ①池尻隆史, 安藤正雄, 布野修司, 山根周, 片岡巖: ネイティブタウン (インド, ムンバイ) におけるチョールの類型に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 603 号 pp37-44, 2006 年 5 月. Morphological Typology of the "Chowli" in the "Native Town" in Mumbai, India, J. Archit. Plann. AIJ, No. 603, pp37-44, May, 2006
- ②柳沢究, 大辻絢子, 布野修司, マドゥライ (タミル・ナードゥ州, インド) の都市形成と棲み分けの構造, 日本建築学会計画系論文集, 第 605 号 pp93-99, 2006 年 7 月. Considerations on Spatial Formation and Segregation of Caste Groups in Madurai (Tamil Nadu, India), Archit. Plann. AIJ, No. 605, pp93-99, Jul., 2006
- ③Nawit Ongsavangciiai, Shuji Funo: Spatial Organization of Shophouse in Market towns in the Central Plains of Thailand, J. Archit. Plann. AIJ, No. 606, pp9-16, Aug, 2006, タイ・中部平原のマーケット・タウンのショップハウスの空間構成ータラート・クロンスウォンを事例としてー, 日本建築学会計画系論文集, 第 606 号 pp9-16, 2006 年 8 月
- ④山田協太, 前田昌弘, 村上和, 布野修司: ヴォルフェンダール (コロンボ, スリランカ) の街区構成と住居類型に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 第 607 号 pp71-78, 2006 年 9 月. Considerations on Block formation and House Types in Wolvendaal (Colombo, Sri Lanka), J. Archit. Plann. AIJ, No. 607, pp71-78, S, 2006
- ⑤趙聖民, 布野修司, 韓三建: 日本植民統治期における韓国密陽・三浪津邑の都市形成と土地所有変化に関する考察ー旧日本人町に着目してー, 日本建築学会計画系論文集, 第 607 号 pp79-86, 2006 年 9 月. Considerations on Transformation of Land Ownership in the Samrangjin of Milyang, City in the Period of Japanese Occupancy (1910-1945), J. Archit. Plann. AIJ, No. 607, pp79-86, Sep, 2006
- ⑥山田協太, 布野修司: オランダ東インド会社 (VOC) によるフォート・コーチン (ケーララ, インド) の再編に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 第 608 号 pp81-87, 2006 年 9 月. Considerations on Reformation of Fort Cochin (Kerala, India) by Dutch East India Company (VOC), J. Archit. Plann. AIJ, No. 608, pp81-87, Sep., 2006
- ⑦山田協太, 前田昌弘, 村上和, 中川雄輔, 布野修司: カイゼル・ストリート (コロンボ, スリランカ) の建築類型の形成と変容に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 第 613 号 pp7-13, 2007 年 3 月. Considerations on Formation and Transformation of Building Types in Keyser Street (Colombo, Sri Lanka), J. Archit. Plann. AIJ, No. 613, pp7-13, Mar., 2007
- ⑧山田協太, 前田昌弘, 村上和, 中川雄輔, 布野修司, ペタ (コロンボ, スリランカ) の形成とその変容に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 第 614 号 pp153-160, 2007 年 4 月. Considerations on Formation and Transformation in Pettah (Colombo, Sri Lanka), J. Archit. Plann. AIJ, No. 614, pp153-160, Apr., 2007
- ⑨前田昌弘, 中川雄輔, 山田協太, 布野修司,

インド洋スマトラ島沖地震津波後のスリランカ南西沿岸居住地における復興の実態と問題点に関する考察—平常時の居住環境との連続性に着目して—, 日本建築学会計画系論文集, 第 614 号 pp183-190, 2007 年 4 月. Considerations on Realities and Issues of Settlements in South West Coast of Sri Lanka after the Sumatra Earthquake and Indian Ocean Tsunami in 2004—From view of continuation from the usual living environment—, J. Archit. Plann. AIJ, No. 614, pp183-190, Apr., 2007

⑩趙聖民, 朴重信, 金泰永, 布野修司, 「韓国密陽・三浪津における旧日本人居住地の形成と旧鉄道官舎の変容に関する考察」, 日本建築学会計画系論文集第 615 号 p 21-27, 2007 年 5 月

⑪趙聖民, 布野修司: 韓国慶州における旧鉄道官舎地区の居住空間の変容に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 第 619 号 pp17-23, 2007 年 9 月. A Consideration on the Transformation of Living Space of Railroad tied Residence District in Kyongju, Korea, J. Archit. Plann. AIJ, No. 617, pp17-23, Sep, 2007

⑫趙聖民, 朴重信, 布野修司: 韓国密陽・三浪津邑における駅前商店街の形成と居住空間の変容に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 第 620 号 pp9-15, 2007 年 10 月. A Study on Formation of Shopping District at the Front of Station and Transformation of Living Space in Samrangjin of Milyang, Korea, J. Archit. Plann. AIJ, No. 620, pp9-15, Oct, 2007

⑬趙聖民, 布野修司: 韓国安東における旧鉄道官舎地区の居住空間の変容に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 第 622 号 pp17-23, 2007 年 12 月. A Consideration the Transformation of Living Place of Railroad tied Residence District in Andong, Korea, J. Archit. Plann. AIJ, No. 622, pp17-23, Dec, 2007

⑭柳沢究, 布野修司, ヴァーラーナシー (ウッタル・プラデーシュ州, インド) におけるモハッラの空間構成 Spatial Formation of Mohalla in Varanasi City (Uttar Pradesh, India), 日本建築学会計画系論文集, 第 623 号 pp153-160, 2008 年 1 月

⑮川井操, 布野修司, 山根周: 西安旧城・回族居住地区の街区構成と街路体系に関する考察, Considerations on Formation of Community and Street System of Hui' s Residential District in Xi' an Old Castle District, 日本建築学会計画系論文集, 第 628 号, pp1213-1219, 2008 年 6 月

⑯Shu Yamane, Shuji Funo, Takashi Ikejiri: Space Formation and Transformation of the Urban Tissue of Old Delhi, India, "JAABE Journal of Asian Architecture and Building Engineering, pp. 217-224, Vol. 7, No. 2, November, 2008.

⑰Chantane Chiranthanut, Shuji Funo: ムクダハン地方 (タイ) のカロン族住居の空間構成とその変容に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 第 633 号, pp2285-2292, 2008 年 11 月

⑱川井操, 布野修司, 山根周, 西安旧城・回族居住地区の住居類型とその変容に関する考察 Considerations on Typology and Transformation of Houses of Hui' s Residential District in Xi' an Old Castle, 日本建築学会計画系論文集, 第 74 巻, 第 636 号, pp. 315-321, 2009 年 2 月

⑲布野修司, 高橋俊也, 川井操, チャンタニー・チランタナット, カンボンとカンボン住居の変容 (1984-2006) に関する考察, Considerations on Transformation 1984-2006 of Kampung and Kampung Houses, 日本建築学会計画系論文集, 第 74 巻 第 637 号, pp. 593-600, 2009 年 3 月

⑳チャンタニー・チランタナット, 布野修司: タイ・ルーイ族住居の空間構成とその変容に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 第 74 巻, 第 642 号, pp1735-1741, 2009 年 8 月

㉑廣富純, チャンタニー・チランタナット, 布野修司: ピマーイ (イサーン, タイ) の街路体系と街区構成に関する考察 Considerations on Street System and Formation of Street Block of Phimai (Isan, Thailand), 日本建築学会計画系論文集, 第 74 巻, 第 645 号, pp2399-2405, 2009 年 11 月

㉒廣富純, チャンタニー・チランタナット, 布野修司: ピマーイ (イサーン, タイ) の住居構成と住居類型に関する考察: Considerations on Formation of Housing Blocks and Typology of Dwelling Units of Phimai (Isan, Thailand), 日本建築学会計画系論文集 第 74 巻 第 646 号, pp2579-2586, 2009 年 12 月

[学会発表] (計 25 件)

①中川雄輔, 前田昌弘, 布野修司 (2006) 「コロボ近郊における津波被災シャンティ・セツルメントの復興過程 その 1 スリランカにおける居住政策の変遷と津波復興政策の位置づけ」, pp. 195-196, 日本建築学会学術講演会梗概集, 神奈川大学, 2006 年 9 月 7 日~9 日.

②前田昌弘, 中川雄輔, 布野修司 (2006) 「コロボ近郊における津波被災シャンティ・セツルメントの復興過程 その 2 沿岸居住地の被害状況と復興の実態」, pp. 197-198, 日本建築学会学術講演会梗概集, 神奈川大学, 2006 年 9 月 7 日~9 日.

③朴重信, 趙聖民, 金泰永, 布野修司 (2006) 「日本植民地期における韓国の河川の日本人移住漁村について その 1 密陽の三浪津邑の事例」, pp. 197-198, 日本建築学会学術講演会梗概集, 神奈川大学, 2006 年 9 月 7 日~9 日.

④趙聖民, 朴重信, 布野修司 (2006) 「韓国密陽市三浪津邑鉄道官舎の形成と空間変容に関する考察—三浪津鉄道官舎の形成と空間変容を中心として—」, pp. 139-140, 日本建築学会学術講演会梗概集, 神奈川大学, 2006 年 9 月 7 日~9 日

⑤前田昌弘 (京都大)・中川雄輔・布野修司・高田光雄 (2007) 「スリランカにおける津波被災地居住地の再定住事業の実態に関する研究 その 1 再定住事業のプロセス」, 日本建築学会大会 (福岡) 学術講演梗概集 5003

⑥中濱春洋 (滋賀県立大大学院)・趙聖民・布野修司 (2007) 「韓国安東における旧鉄道官舎地区の居住空間の変容に関する考察 その 1 安東旧鉄道町の街区構造について」, 日本建築学会大会 (福岡) 学術講演梗概集 5016

⑦趙聖民 (滋賀県立大大学院)・中濱春洋・布野修司 (2007) 「韓国安東における旧鉄道官

舎地区の居住空間の変容に関する考察 その2 旧鉄道官舎の居住空間変容, 日本建築学会大会(福岡) 学術講演梗概集 5017

⑧ 朴光成(滋賀県立大大学院)・川井操・布野修司(2007)「西安城における回族居住地区の空間構成に関する考察 その1 街区構成と施設分布」, 日本建築学会大会(福岡) 学術講演梗概集 7336

⑨ 川井操(滋賀県立大大学院)・朴光成・布野修司(2007)「西安城内における回族居住地区の空間構成に関する考察 その2 街路体系と街区構成」, 日本建築学会大会(福岡) 学術講演梗概集 7337

⑩ 柳沢究(神戸芸術工科大)・中濱春洋・岡村知明・布野修司(2008)「ヴァーラーナシー(インド)旧市街における住居の平面構成と類型」, 日本建築学会大会(広島) 学術講演梗概集 2008年, E-2分冊, p. 185

⑪ 小川哲史(滋賀県立大)・川井操・布野修司, 「西安旧城・回族居住地区の住居類型に関する考察 その1 住居の概要, 宅地類型」, 日本建築学会大会(広島) 学術講演梗概集 2008年, E-2分冊, p. 187

⑫ 中濱春洋(滋賀県立大大学院)・柳沢究・岡村知明・布野修司, 「ヴァーラーナシー(インド)における居住区の比較に関する研究 ヒンドゥー教徒地区とイスラーム教徒地区について」, 日本建築学会大会(広島) 学術講演梗概集 2008年, E-2分冊, p. 353

⑬ 高橋俊也(滋賀県立大)・陳春名・川井操・岡崎まり・美和絵里奈・鮫島拓・山田協太・布野修司, 「台湾・澎湖群島の集落および都市の空間構成に関する研究 その3 望安島の集落の基本構成と各集落の空間構成」, 日本建築学会大会(広島) 学術講演梗概集 2008年, E-2分冊, p. 359

⑭ 鮫島拓(滋賀県立大)・陳春名・高橋俊也・川井操・岡崎まり・美和絵里奈・山田協太・布野修司, 「台湾・澎湖群島の集落および都市の空間構成に関する研究 その4 望安島・中社の集落空間構成」, 日本建築学会大会(広島) 学術講演梗概集 2008年, E-2分冊, p. 361

⑮ 陳春名(滋賀県立大)・高橋俊也・川井操・岡崎まり・美和絵里奈・山田協太・布野修司・鮫島拓, 「台湾・澎湖群島の集落および都市の空間構成に関する研究 その1 澎湖群島の発展と集落, 都市の概要」, 日本建築学会大会(広島) 学術講演梗概集 2008年, E-2分冊, p. 369

⑯ 美和絵里奈(滋賀県立大)・陳春名・高橋俊也・川井操・岡崎まり・山田協太・布野修司・鮫島拓, 「台湾・澎湖群島の集落および都市の空間構成に関する研究 その2 馬公市の都市空間構成および中央里付近の街区構成」, 日本建築学会大会(広島) 学術講演梗概集 2008年, E-2分冊, p. 369

⑰ 渡辺光一郎(滋賀県立大大学院)・川井操・布野修司(2009), 北京牛街・回族居住地区の街路変遷に関する考察, 日本建築学会大会(仙台) 学術講演梗概集 5754

⑱ 若松堅太郎(滋賀県立大)・川井操・布野修司(2009), 北京内城・朝陽門地区の街区

構成とその変容に関する考察, 日本建築学会大会(仙台) 学術講演梗概集 5755

⑲ 山根周(滋賀県立大学)・岡村知明・西村弘代・深見奈緒子・布野修司(2009), インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する研究その1 ムカッター旧市街(イエメン, ハドラマウト州)の都市構成と集住形式, 日本建築学会大会(仙台) 学術講演梗概集 5756

⑳ Chantaneer chiranthanut(滋賀県立大大学院)・山田愛・額田直子・布野修司(2009), ヴィエンチャンにおける都市空間の変容と住居形式に関する考察 その1 都市形成とショッピングハウスの分布, 日本建築学会大会(仙台) 学術講演梗概集 5758

㉑ 山田愛(滋賀県立大大学院)・CHANTANEE CHIRANTHANUT・額田直子・布野修司(2009), ヴィエンチャンにおける都市空間の変容と住居形式に関する考察 その2 植民地住居の形態と変容について, 日本建築学会大会(仙台) 学術講演梗概集 5759

㉒ 趙沖(滋賀県立大大学院)・川井操・布野修司・石川智章(2009), 福建・泉州市における鯉城区の空間構成に関する研究 その1 街路体系および施設分布, 日本建築学会大会(仙台) 学術講演梗概集 5772

㉓ 石川智章(滋賀県立大大学院)・川井操・趙沖・布野修司(2009), 福建・泉州市における鯉城区の空間構成に関する研究 その2 騎楼型住居の空間構成, 日本建築学会大会(仙台) 学術講演梗概集 5773

㉔ 美和絵里奈(滋賀県立大大学院)・陳春名・高橋俊也・川井操・岡崎まり・山田協太・布野修司(2009), 台湾・澎湖群島の集落および都市の空間構成に関する研究その5 將軍島・將軍村の集落空間構成, 日本建築学会大会(仙台) 学術講演梗概集 5774

㉕ 川井操(滋賀県立大大学院)・布野修司(2009), 西安旧城・回族居住地区の住み分けに関する考察, 日本建築学会大会(仙台) 学術講演梗概集 5778

[図書](計3件)

① 布野修司, 『曼荼羅都市・・・ヒンドゥー都市の空間理念とその変容』京都大学学術出版会, 2006年2月25日

② Shuji Funo & M.M.Pant, “Stupa & Swastika”, Kyoto University Press+Singapore National University Press, 2007

③ 布野修司+山根周『ムガル都市ーイスラーム都市の空間変容』京都大学学術出版会, 2008年5月30日

[その他]

ホームページ等  
www. ses. usp. ac. jp. /lab/funo

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

布野修司 (FUNO SHUJI)  
滋賀県立大学・環境科学部・教授  
研究者番号: 50107538